

『複雑化の教育論』『街場の教育論』内田樹

教育の目的は子どもたちの成熟を支援すること。成熟とは複雑化すること。

今の日本の教育制度、学校制度は複雑化を支援する場となりえていないのではないか？

1. 日本の教育の現状

○ 教師・学校

教育は「有用な知識技術の獲得」「格付け」だけだと信じている。P.34

量的なものだけを詰め込み型に当てはめる。複雑化する子どもを受け止められない。

統制することに懸命になる。子どもになめられないために威圧的になる。

教育委員会、文科省の指導のもと。ブルシット・ジョブの増大（授業以外の雑多な業務）

ゆえに機嫌よくいられない→ 心身共に子どもたちに関わるゆとりがない。個体識別できない

○ 家庭・親

子どもの幸せを願ってはいるが、それは親がイメージする世間一般的に信じられているところの幸せ。

量的なものを獲得し格付けの上位に自分の子どもが上がることを願う。

思春期からの子どもの変化、複雑化を受け入れられない。自分の子どもが脱落してしまうのではないか

という不安と恐怖→ 過干渉。子離れできない。そこにいるだけでいいと思えない。

○ 子ども

量的変化しか受け入れてもらえないと感じる。複雑化することを悪いことだと思っている。P.39

大人になることを望まない。メンターの不在。身近な大人は親と教師、メディアによる歪んだ大人

成長を望まない。身体の成熟も拒否する。摂食障害。韓国アイドルへの憧れ

不登校の増加。学校に行くとき生きる力が衰弱するということを直感し命を守るため p.59,84

学校に行けない。教室に入れない。→ 子ども同士が監視し合う。

疎外感、孤立感。居場所がない。対人恐怖症 視線恐怖症 医療的ケアを望む大人
自傷行為の増加。親への暴言暴力。ひきこもり。起立性調節障害。

2. 子どもの成熟・複雑化を望まないのは何故なのか？

普通の国では国民の成熟を望む。そのほうが民主主義国では正しく機能するから。日本は逆 p.148

国は国民の成熟を望んでいない。幼児のままでいて欲しい。幼児化による民主主義の機能不全。

民主制以外の制度は、民衆が幼児的であって自治能力がない方が治めやすい。P.160~165

国民の幼児化。幼児=自他未分化。自閉性。自己中心性。人間の知性は葛藤のうちで開発される p.53

自己中心性から脱却するには他者との衝突しかない。日本は文化的な衝突というものを経験してこなかったのではないか。幼児のままで近代化を取り入れてしまった（岸田秀）

3. 発題

○ 日本人の幼児化についてどのように感じていますか？

○ 機嫌よくいること 自己同期について心がけていることはありますか？